



♡いもうと♡
イタズラDays!

「おいしい小鳩？風呂沸いたから先はいってまたこんな
トコで寝ちまいやがって。まったくおい小鳩っ寝るなら
風呂入ってからにしる」

「すう…すう…」

「やっぱり起きないか…一度寝たら朝まで起きないからなあ…
ったく子供かコイツは…さてどうしたもんかなあ
パンツなんか丸見えじゃねえか、このアホ妹は…」

（コイツももう、年頃の女なん…だよな…ってイヤイヤ待て待てっ
何考えてんだオレはっ！コイツは妹だぞっ！）

「ゴクッ」



(あ、兄として妹の成長を確認するだけだっ)

「うおっ」

(は、生えてねえ・そうじゃないかとは思ってはいたが…
見事にパイパンマンゴだな…つつつでも本物のマンゴを
見たのはコレが初めてなワケだが…あ、味とか…すんのかな)

「すう…すう…」

「起きる気配は無い、と…」



(マン)って中は「う」なってるのか…味のほうはどんなもんなんかな)

「れるっ」

「っ」

「っ気のせいかな…」

(しっかし「コ」って変な味はしないけど…やっべえ…
メッチャ興奮してくるなこれ…)

「んっ…あっ…はあっ…んあっ」

(これがクリトリスか…どれ)

「じゅるるっ」

「っ」





「んっ♡くっ♡んうっ♡
くんんんんんううううんんん」

「うお!? な、なんだ!」

「んっ♡くっ♡くうんっ♡あっ♡はっ♡
はあっ♡はあっ♡はあっ♡はあっ♡」

（潮吹いたってことは、イっつたってことが、
ちよつとクリトリス舐めただけでコレが、感じやすいんかなコイツ
ってやべえ!）

んっ♡くっ♡んうっ♡
くんんんんんううううんんん

んっ♡くっ♡くうんっ♡あっ♡はっ♡
はあっ♡はあっ♡はあっ♡はあっ♡

んっ♡くっ♡くうんっ♡あっ♡はっ♡
はあっ♡はあっ♡はあっ♡はあっ♡

「はあっ♡はあっ♡はあ♡…ん…んあ…？」

「おう、起きたか。まったく寝るんだったらベッドで寝ろっていつも言ってるんだろ？」

「へ…？…あ…うん…」「めんなさい…」

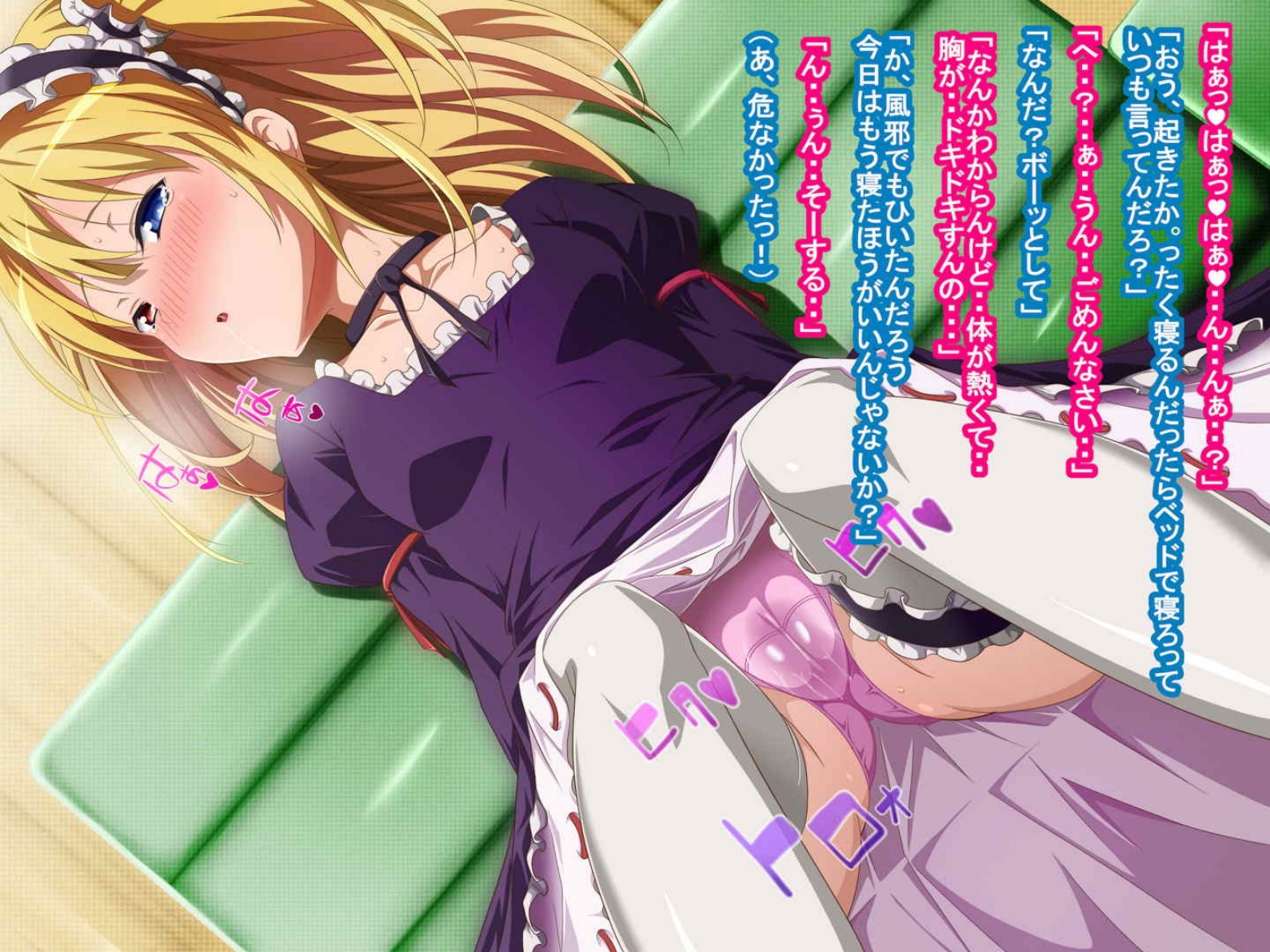
「なんだ？ポーツとして」

「なんかわからんけど…体が熱くて…胸が…ドキドキすんの…」

「か、風邪でもひいたんだろっ
今日はもう寝たほうがいいんじゃないか？」

「ん…うん…そ…する…」

（あ、危なかったっ！）



「おいしい小鳩」応薬持つき…ってなんで裸!？」

(そっぴやきつき体が熱いとかなんとか…だからって裸で寝るか普通!?
無防備すぎんだらうがこのアホ!?)

「すう…すう…」

(しかももう寝てやがるし…くっ、コイツの裸は着替えの時に何度か
チラ見えてはいたけど…まじまじと見るのは初めてだな…)

「ゴクリッ」

スウ スウ



「はあっはあっはあっ」

「うっゆっ…んっゆっ…ふみゆっ…」

(妹の唇にチンポ擦りつけて…何やってんだ俺…でも、さっきコイツのマン「うい」ってたときから勃起っばなしだし…コイツもイっただから、俺もイかないと不公平…だよな?…)

「はあっはあっはあっ…くっ」

(やたらとプニプニした唇しやがって…っ…く、口の中はもっとすげえのかな…)

オオオオ

ズレッ
ズレッ



「んっ…ぶあっ」

「はあっはあっはあっ」

（や、やっちまった…寝ている妹の口にチンポ突っ込んで口内射精とか…最悪すぎる…）

「んっや…うっめ…」

（こんだけされてなお寝てられるコイツもどうかと思うが…よし！今日のゴトは忘れて、明日からはいつもの俺に戻ろう！！こんな事が癖になったらマジで近親相姦になりかねんしな！！）

ゴクッ

ゴクッ

ドロ





「あ。あんちゃんだ」

（ムリムリムリっ！ムリだっ！これ！
なんなのコイツ？警戒心とかないの！
なんでリビングで着替えたよ！
一瞬で理性が吹き飛んだわ！）

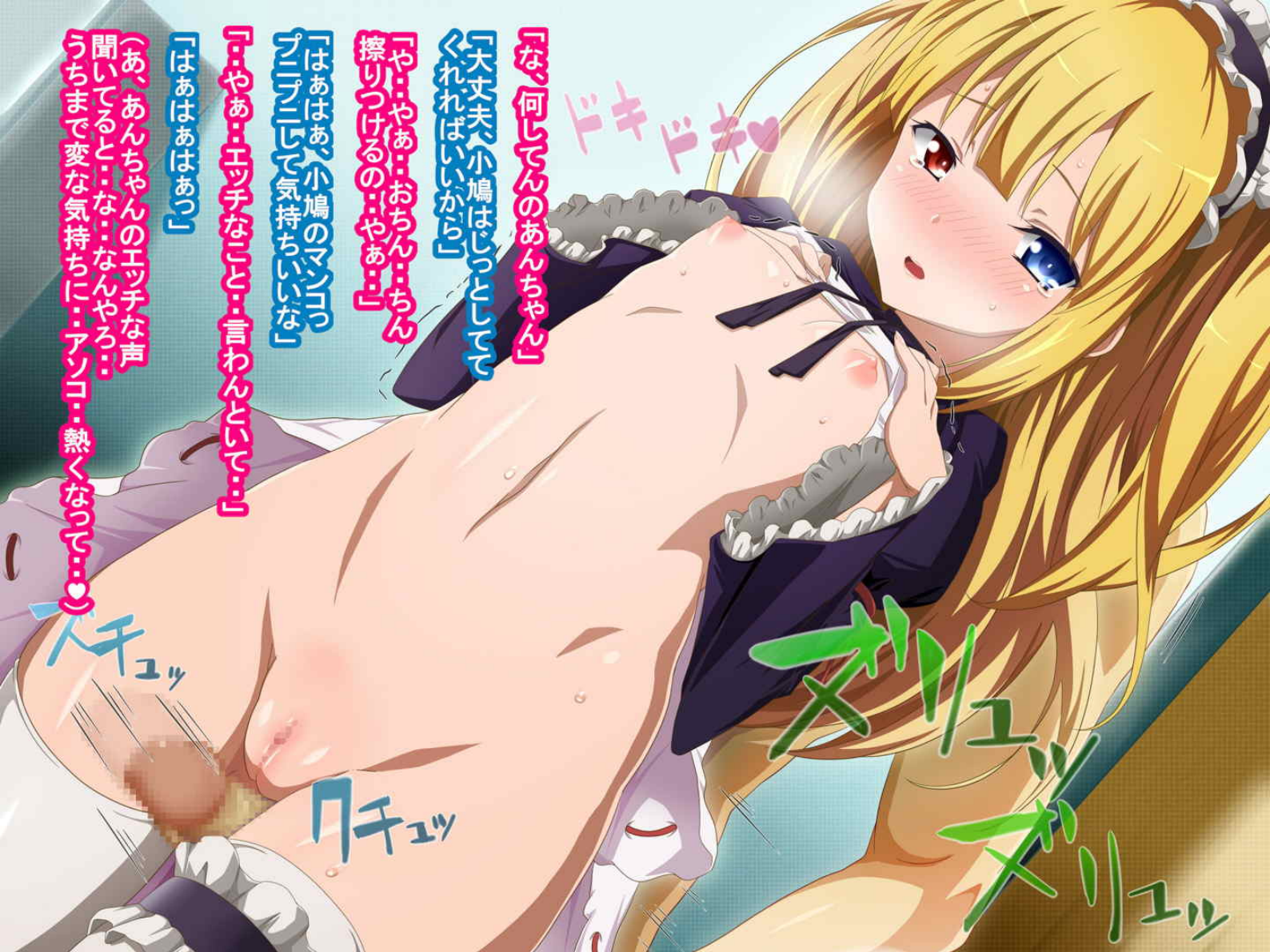
「？でしたん？着替え
手伝ってくれるん？」

「いや…ちよっと小鳩にお願い
したいことがあってな…」

【く…何？】

「えっと…実はな…」

スッ



ドキドキ♡

「な、何してんのあんちゃん」

「大丈夫、小鳩はじっとしててくれればいーから」

「や、やあ、おちんちん、擦りつけるの、やあ」

「はあはあ、小鳩のマン、プニプニして気持ちいいな」

「やあ、エッチなこと、言わんとすて」

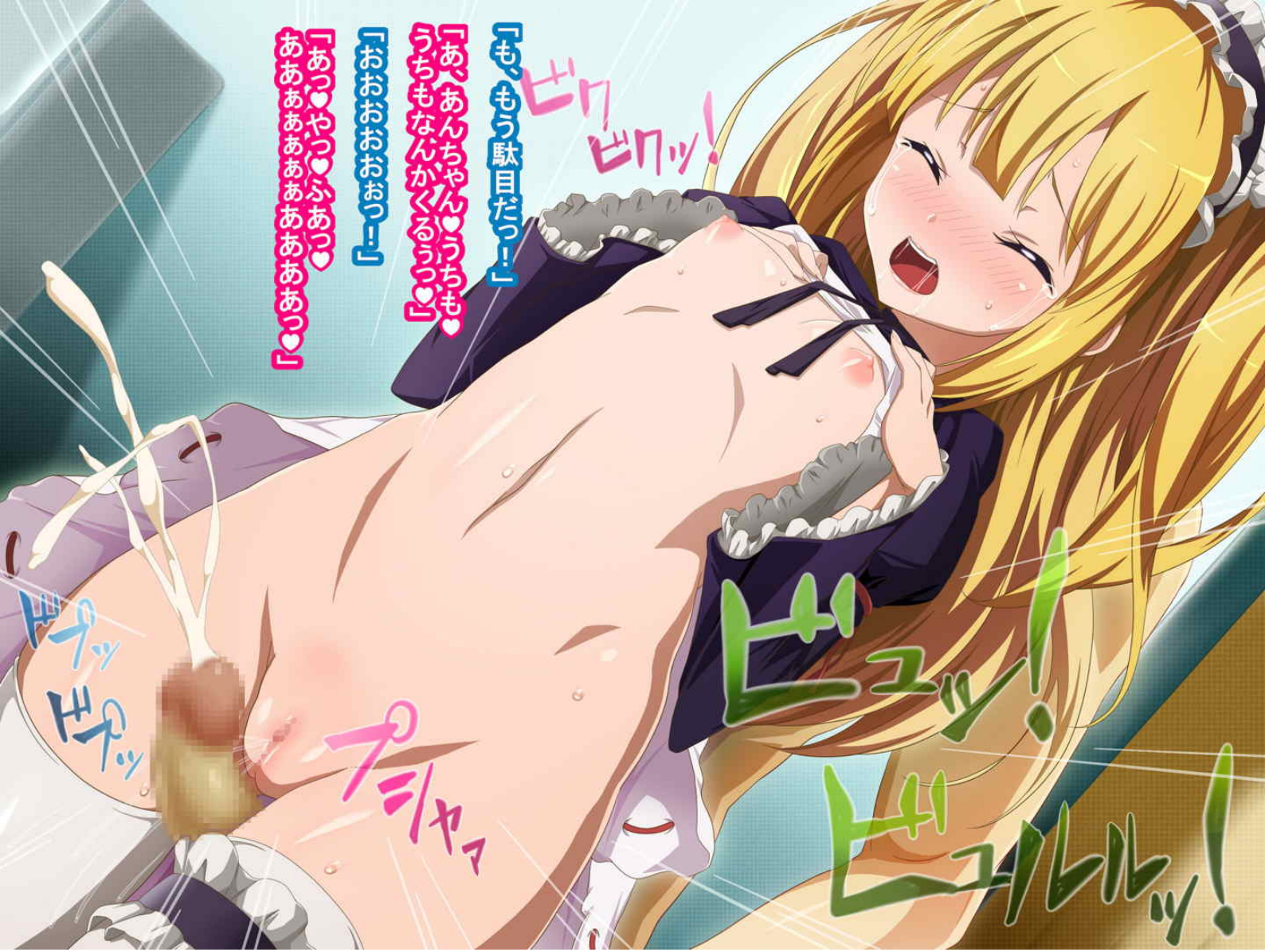
「はあはあはあっ」

（あ、あんちゃんのエッチな声聞いていると、な、なんやろ、うちまで変な気持ちに、アソコ、熱くなってる）

グリュグリュ

グチュッ

グチュッ



ピンク
ビュッ!

「も、もう駄目だっ!」

「あ、あんちゃん♡うちも♡
うちもなんがくるうっ♡」

「おおおおおおおっ!」

「あ♡♡♡や♡♡♡ふ♡♡♡あ♡♡♡
あ♡♡♡あ♡♡♡あ♡♡♡あ♡♡♡あ♡♡♡
あ♡♡♡あ♡♡♡あ♡♡♡あ♡♡♡あ♡♡♡」

緑
ビュッ!
ビュッ!
ビュッ!

ピンク
アッ
アッ
アッ

青
アッ
アッ
アッ



「はあっはあっはあっ」

「あっ♡はあっ♡はあっ♡はあっ♡」

「はっ！わ、悪いっ、大丈夫か小鳩っ！」

「あっ…あんちゃんの…せーしっ♡」

「っ、小鳩…？」

「あっ…あんちゃん…あんなあ…？」

「ど、どした？」

「うちのアソコ…めっちゃ熱なって…ムズムズするの…せやからさっきの…も…もっかい…して欲しい…♡」

「…風呂入った後、部屋で待ってる…」

ドキドキ♡

はっ♡

はっ♡

キュっ♡

キュっ♡

トロっ

トロっ



「あ、あれ？あんちゃん、さっきのはっ」

「ああ、今度はさっきよりずっと気持ちいい」としてやるからな」

「せ、さっきよりっ」

「ああ、これからするのは、セックスだ」

「せ、せつすっ」

「イヤか？」

「..あんちゃん以外のとなんで..や..っ」

「.....さよなら俺の理性」



ヒクッ!

ヒクッ!

「あつーうあつーあああああつー!」

「さ、さすがにキツいな…っ」

「いっ、痛っっっっっ! あつーがあつー!」

「あ、あんちゃん…いい、痛い、痛いよおつー!」

「わかった、ゆっくり…ゆっくり入れるからな」

「あつーはっ…ひびっ…うあああつー!」

「よし、全部入った。それじゃ…動くぞ」

「あ、あんちゃんっ、ちょっと待…っ!」

グググッ

ギィ

ギィッ!

ギキッ!

ギキギキ!



「出すぞっ小鳩っ」

「あああああああっ♡♡♡
出てるっ♡あんちゃんのをせーっ♡♡
うちのオマンコの中で出てるんっ♡♡
おちんちん中でビクビクしてっ♡♡
くるっ♡きちやっ♡すーい♡のきさやっ♡♡
あああああああああっ♡♡♡♡♡」

「oooooooooo」

「まだっ出っ♡出来ちゃっ♡♡
あんちゃんの赤ちゃんっ♡出来ちゃっ♡おっ♡♡」

ゴクッ!
ゴクッ!
ゴクッ!

ハッ!
ハッ!

ゴクッ!
ゴクッ!
ゴクッ!



「はあっ♡はあっ♡…あ…ふあ…♡
う…うちのおんちゃんは…鬼畜じゃ…♡」
「うっす、スマン♡」

「初めてやったのに…優しくして
欲しかったのに…あんな乱暴にして…
な、中にこんなにいっぱい…♡」

「わ、悪かったわ」

「っ…次は…」

「えっ？」

「次は…優しくしてくれんと…許さんもん…♡」

「っ…おっっっ」



「小鳩おおっ！」

「あ、あんちゃんはな、何すんの!?」

「決まっておろう、セックスだ!」

「rurpe」

「rurpe」

「やー」

「なにゆえぬ」

「ムードもへつたくれもあらへんもんつ

それに、こんなわんちゃんみたいな格好…やっ!」

「ぬっっ…」

「それからカーテンの隙間から外に…」

「んんん」



「小鳩っ好きだあつー!」

「ふえ!? あんちゃん今なんて…
くっくっうんんんっ♡」

「さすがにこないだよりは
スムーズに入ったな、小鳩
お前のマンコの方は準備OKだったみたいだぞ?」

「そっ…んなっ…ワケっ…!!
んっくっくっくっ♡」

（あんちゃんのおちんちん入れられると…
抵抗できんよおっ!）

ピクッ

んっ
ピクッ!

グニャッ

ズ
ク
ズ
ク
ズ
ク



「はあっはあっ、どうだっ小鳩っ？
バックで突かれるのはっ？」

「あっはっやあっこっ、こんなっ格好っ
うちっわんちゃんじゃっやっないもんっ！」

「お、それいいな。小鳩、ワッって言ってみっ？」

「そっそんなのっ、言っわけっ！」

「言わないともっと激しくじちやうぞっほれほれっ！」

「あっあっんあっふあっいっ、言っっ、言っからっ！」

「よーしい子だ」

「わっわんっわんわんっ！」

（こっ、こっは思った以上の破壊力っ）

はっ

あっ

はっ！
はっ！
はっ！
はっ！
はっ！



「あ♡はっ♡はあっ♡」

「あ…あんちゃんなんか…嫌いじゃ…」

「ほんっとーにすまんかった!」

「そつ言つてまた意地悪するんじゃ…
あんちゃん本当は、うちの事が嫌いなんじゃ…」

「いやいやっさつき好きって言ったよね!」

「…ほんま…?」

「ホントホント」

「…次…意地悪したら、もうエッチさせんから…」

「…おっ」

ほっ♡

ほっ♡

ピク

ゴキョッ

ゴキョッ

ビチャッ

ピク

ピク

「う、こんな感じ?」

「そうそう、そんな感じ」

「でも…なんで? エッチはせんのか?」

「いれちまうと、どうしても暴走しちゃうからな…
これならお前のペースで出来るだろ?」

「う、うん…でもコレ気持ちいいん?」

「お、おう」

(もっちょよつとサイズがあれば尚いいんだけどな…
せめてアイツの半分くらい…)



「今なんか失礼なコト考えんかった？」

「ナニイッテンノ？」

「浮気は死刑」

「しなごうせい」

「あんちゃんはずちだけ見てればえーの
あんちゃんを気持ちよく出来るのは
うちだけやもんっ」

「くさくさ」

「むん」



「ほら♥あんちゃんのおちんちん、くちゅくちゅいってるよ。」

「あ、ああ…はあ…はあ…」

「ピュッでしたくなったら我慢せんといてな…」

「あんちゃんまたえつちな声出してな…」

「この声聞いてると…うちのほうまで…♡」

「うっ…小鳩っ…そろそろ…、小鳩？」

「あっ♡…はあ♡…はあ♡…」

「先っぽとおちんちんが擦れて…♡おっぱい気持ちいい♡」



♡キゅ♡キゅ♡

「やばい、出るっ！」

「へ？ あっ、ふわっ！」

（す、すっ…噴水みたい…
間近で見たの初めてやけど…
射精つて…こんな勢いよく出るん？
これがいつもうちの中に入って…）

「はあっはあっ」

「わわっ！」

（ま、まだ出んの！お、おちんちん、めっちゃ
ビクビクして…）

ポクッ

ビクッ！

ビュルッ！



「ふう…悪い、ビククリさせちまったか？」

「…え？…あ…うん…へーき…」

「ん？ほんとに大丈夫か？」

「…うん…」

「す…すい匂い…こんな近くで嗅いでると…
な…なんか…ポツツとしてきて…
あ…味とか…どんななんかな…」

「小鳩？」

「へ？…あ…なんもないっ！」

「う、うち何考えとるんっ…
せ、せーし舐めるなんて…
まるで…へ…変態さんじゃ…」





「べろ♡える♡れる♡」

「これといつて変な味はせんけど…
なんかじよっぱい…?」

「うん」

「この先のぼの付け根についでる白いの…
すこい匂い…昨日のせしみみたいなの…
あ…味見してみよかな…」

「んえっ」

「マズっ?なにこれ!?でもあんちゃんのだし…
う、うちが綺麗にしてあげんと!」

「ん…あむ♡ちゅっ♡ちゅぽ♡
んじゅっ♡じゅるっ♡ぢゅるるっ♡」

「…これなら「気に綺麗に
出来るかな…」」

「うっ、はあ、はあ」

（あんちゃん…気持ちいいんかな…
うちがさっきの白いチズみたいなの
全部舐め取って綺麗にしてあげるから…
あんちゃんは気持ち良くなって♡）

「じゅるっ♡じゅずっ♡じゅぶぶっ♡」

（あ…口の中せーし匂いでいい♡
そのまま続けたらせーし出てくる…かな…？）



「数ヶ月後」

「朝から勘弁してくれ…」

「あ、起きた♡
おはようあんちゃん♡」

「おはようじゃねっつ…
昨日あんだけしてまだ足りないのかお前は…」

「でもあんちゃんのオチンポさんだつて
ガチガチになつてるよ？」

「…これは単なる生理現象だ…」

「最近な？ローション無しでも
お尻に入るようになったんよ？」

「話聞いて…」



「あつ♡はつ♡はあつ♡
いい♡いいよ♡あんちゃん♡
もっ♡もっ♡おっ♡」

「ん」

「(二)数ヶ月毎日毎日…
どんな性欲してんだ(一)は…」

「お尻イイ♡お尻イイよおっ♡
あんちゃんもっ♡もっ♡奥までさっ♡」

(妊婦のくせに「イッ…」
親父にバシたら俺がハツ倒されるってのに…
だ「っ!!もうどうにでもなれ!!」

「オラっ、どうだっコンチクショウー!」

「ひああつ♡す、スゴイ♡
スゴイよおっ♡うち…もう…だめえっ♡」

「ん♡」

「ん♡」

グチュ!

グチュ!





「い、イクっ♡お尻でッ♡お尻で
イっひゃうっひゃうっひゃうっひゃうっ♡」

「おおおおおっー」

「ひゃうっき、きた♡お尻に
せーじきたあぁっ♡」

「はぁっ、はぁっ、はぁっ」

「熱いのがっ♡お尻にドクドクっ♡
っまっまっっまっまっまっまっ♡」

ゴッ! ゴッ! ゴッ!

ガッ! ゴッ! ゴッ!

まっ♡ ほっ♡



「んふっ♡あんちゃんのもう固くなってきたのよ♡」

「もう好きにしてくれっ」

「ほんまにっ♡っやったっ♡」

「うっ」

「はっはやまったか？」

「あんちゃんのせーじ全部うちが搾り取ったげる♡」

「もうほんと出ないっのっ」

ズ
ズ
ズ

ア
ア
ア



「あつ♡はつ♡ほらっ♡
あんちゃんのおチンポ♡
完全にガチガチになっどる♡」

「んっ」

(俺の性欲も大概だな…)

「んっ♡はあつ♡はあつ♡
あんちゃんっ、気持ちいい?
うちのオマン」♡気持ちいいっ?

「…ああつ最高だよちくしよっ!」

「うちもっ♡うちも気持ちいい♡
あんちゃんのおチンポ好き♡
大好きいっ♡」

「くっくっ」

(こんだけ使い込んでんのに、
緩くなるどころか日に日にマンゴの吸いつきが
よくなっていきやがるっ!!なんだゴイツはっ!!)

「あっ♡はあっ♡出してあんちゃんっ♡
うちに全部っ♡せーし出してえっ♡」

(?いきなり締め付けが?
ま、マンゴに:搾り取られるっ!!)

ハッ!ハッ!ハッ!



「…あつ♡…はつ♡…はあつ♡…
す！…こんなに溢れしきみる♡…」

「はあつ…はあつ…はあつ…
さ…さすがに…もう出ないぞ…」

「…搾り取るって言った♡…♡」

「…へっ♡」

「…全部出すって言ったもん♡…♡」

「何言ってるの？
イヤイヤ無理だってっ…」

「や…うちが全部出したげるの…！」

「話聞いてっ！」



